

土壤医 1 級取得までと、今後の抱負

小林 美和子*

私は約30年前に培養土メーカーである(株)ホーネンアグリに嫁いで、主人と従業員と共に土に関わる仕事を続けてきました。当社は米どころの新潟県長岡市にあり、水稲用育苗土をはじめ、野菜用や花用等の育苗用土、モミガラや自然木、枝葉のリサイクル事業、そして、それらを粉砕し培養土の原料にし、各種培養土を製造しております。

会社での私の主な仕事は、事務、経理ですが、もともと土をいじるのが小さい頃から好きだったので、自宅の小さな畑で毎年、自社の培土で苗を育て、野菜を栽培しています。また、業務の傍ら、土に関するさまざまな講習会に参加し、自社の培養土を使いながら本当にいい土を作りたいと、心の中で自問自答をしてきたのを思い出します。

そして、長い年月が過ぎ今では優秀な従業員が増え、きちんとした管理体制のもとで日々各種培養土を生産しています。

私たちの会社は、農産物を生産する方々が少しでも楽になれるよう、喜んでもらえるように縁の下で支えることを仕事としております。農家さんが少しでも苦労しないで美味しく、良い農産物を生産できるように資材を提供したり、アドバイスをしたりしてお客様に喜んで使っていただくために、しっかりと



(株)ホーネンアグリ本社

した良い土づくりを第一に考えています。

そんな中、2012年度に土壤医検定試験ができたのを知りました。専門知識の無い私にとっては、とても勇気づけられる制度で、目標に向かって勉強できることはとても嬉しいことでした。作物をとりまく様々な事柄を、3級、2級、1級の参考書はとても良く解説されていて、それをもとに試験対策の講習会で教わった事を繰り返し勉強しました。

1級のレポートに関して提出した内容は、お客様で困っている方の圃場を、自分自身で土壤分析をしその結果、何がなくて、何が足りないのかを考え、その圃場を正常にするために当社で製造している有機質の土壤改良材を使った施肥設計と、圃場の土質に合った資材の提案をし、施肥設計も織り交ぜて実際に行った報告事例を簡単にまとめました。土壤

* 株式会社ホーネンアグリ、土壤医



米どころ新潟県長岡市

分析には病院勤務時代の検査技師の経験が少し生かされています。

レポートの提出を機に、いかに経験が浅く、少ないことに気づかされ、もっともっとそういった栽培試験や土壌診断等による施肥設計指導の経験を積む必要性を感じております。

近年さまざまな場所で圃場が痩せてきて、土が硬くなったり、バランスの崩れた畑や圃場が増えてきています。そういった困っている方々のお役に立ちたい、昔の様な美味しくて栄養価の高い作物を作っていたきたい、そんな思いで良い製品、資材を心がけて作っております。特に力を入れている有機質肥料、土壌改良材について、いろいろと検証を重ね資材の提案ができるようにしていきたいと思っています。

良い作物を作るのに大切なことは、良い土壌をつくるのが大切であることは皆がわかっていることではありますが、良い土壌を作るためには、適正なC/N比、バランスの良い微生物の豊富な堆肥を投入する必要があります。つまりおいしさや栄養価を高めるには植物体の骨格を作る基である炭水化物、それに



緑のリサイクルセンター

見合う窒素源と、ミネラル等が必要です。そのことを本気で考え、農業者様に喜んで使ってもらえる高品質の有機質肥料、培養土、土壌改良材の製造に力を入れております。

そして農業分野の発展のため、新しいことにチャレンジしてもっともっと良い製品を作って生産者さんに喜んでいただきたいと思っています。

それはなぜかと言いますと、今よりももっと美味しくて、栄養価の高い、体に良い農産物を食べたい、又、食べてもらいたいからです。

2012年に2級、2013年に運よく1級に合格させていただきましたが、それと同時に、今以上に土に対しての研鑽が必要なのだと感じ、1級の重みを感じています。

土壌は生き物であると思いますので、日々変化し、不思議な現象を見せてくれます。

私達は、すべてをはぐくむ土に対して、謙虚に学び、勉強し、新しいことを学んで知識を深めていくことが大切だと思います。まだまだ分からないことだらけで、無知な自分を自覚していますが、土に関わる仕事は素晴らしい仕事だと感じています。